

(広報資料)

平成28年度 交通事業予算概要

平成 2 8 年 2 月 1 7 日
交 通 局

担当: 交通局 企画総務部 財務課(863-5080)

自動車運送事業

1 予算概要

○ 更なる利便性向上を積極的に推進

平成28年度予算は、「自立経営」を堅持しつつ、路線・ダイヤの充実、安全対策、快適なバス待ち環境の創出など、更なるお客様の利便性向上を図る積極的な予算として編成

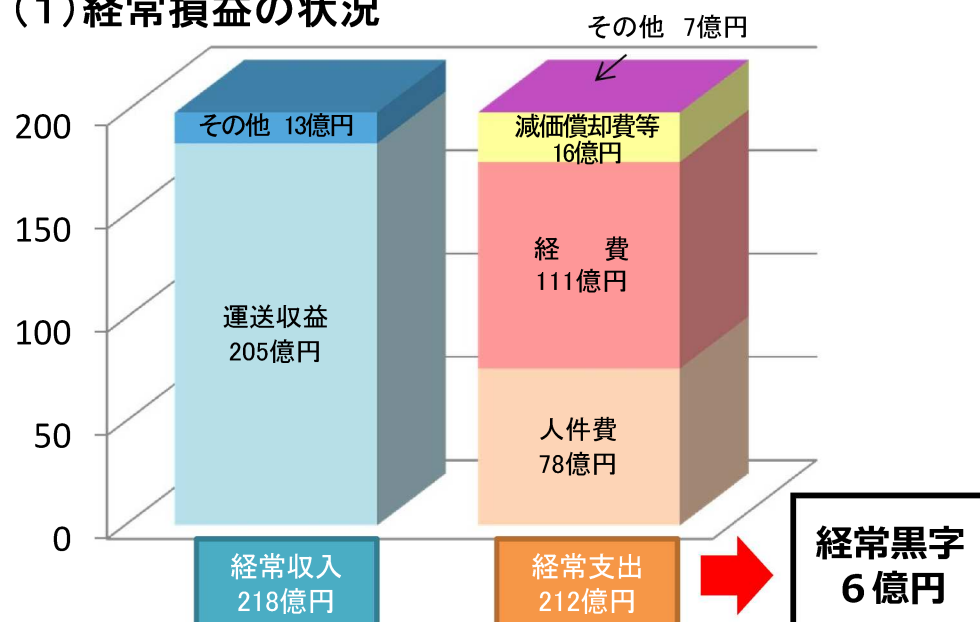
○ 1日当たり旅客数は、前年度比1万5千人増の35万3千人

- ・ 路線・ダイヤの充実や、お客様サービスの拡充などにより、前年度予算に比べ、1万5千人の増加
- ・ 運送収益は、前年度比9億円の増収

○ 経常損益は、6億円の黒字を確保

- ・ 旅客数の増等により、前年度並みの6億円の経常黒字を確保し、引き続き黒字経営を堅持
- ・ 累積の収支は、34億円の利益剰余金を計上

(1) 経常損益の状況



(2) 予算の主要数値

	28年度予算	27年度予算	差引増△減
在籍車両数	804両	800両	4両
走行キロ数 〔1日平均〕	85.8千km	84.9千km	0.9千km
旅客数 〔1日平均〕	353千人	338千人	15千人
経常損益	6億円	6億円	—
利益剰余金	34億円	9億円	25億円
年度末企業債残高	56億円	69億円	△13億円

2 予算の重点

(1) 路線・ダイヤの充実(28年3月実施)

ア 地域主体のMMと一体となった路線・ダイヤの拡充

(ア) 右京区南太秦学区, 西京区松陽学区

昼間時間帯の増便

(イ) 伏見区久我・久我の杜・羽東師地域

朝・夕方ラッシュ・昼間時間帯の増便

(ウ) 西京区洛西ニュータウン福西学区

特西4号系統の平日運行の実施

イ 京都鉄道博物館が開業する梅小路公園へのアクセス強化

(ア) 京都駅とのシャトル系統及び東山・岡崎 エリア, 四条河原町との急行系統の平日運行の実施

(イ) 梅小路公園と地下鉄をはじめとする鉄道との結節強化

ウ 京都駅南口駅前広場整備にあわせた路線・ダイヤの充実

(ア) 伏見稲荷大社, 伏見桃山・中書島への急行系統の新設

(イ) 「東寺」や「東福寺」など, 市南部の主要観光スポットを結ぶルート of 充実

エ 分かりやすさ向上のため「愛称名」から「系統番号」への変更

(ア) 水族館シャトル ⇒ 103号系統

(イ) 四条河原町ショッピングライナー ⇒ 104号系統 など

オ バス停の新設

西京区役所前, 河原町八条, 城南宮

(2) 魅力あるバス待ち環境の創出

ア 周辺地域等におけるバス停上屋の整備(25基)

イ 地域, 事業者等の協力によるバス待ち空間「バスの駅」の設置(10箇所以上)

ウ インターネットを活用したバス接近表示器の設置(80基)

エ ソーラー式バス停照明の設置(100基)

オ ベンチの整備推進

(3) 安全運行の推進

ア 車両ヘッドライトのLED化等による夜間視認性の向上

イ 全運転士が参加するグループワーク重視の安全運転研修の実施

ウ 事故防止重点強化策の実施

(違法駐停車への啓発による走行環境の改善)

(4) お客様サービスの拡充等

ア 岩倉, 修学院地域の均一運賃区間の拡大
(28年3月実施)

イ IC定期券及びICカードによる乗継割引の導入
(29年4月運用開始予定)

ウ 北大路バスターミナルのバス待ちスペースのリニューアル
(平成28~29年度)

エ スマートフォン対応ホームページの開設と4箇国語対応

オ 更なる接遇向上と爽やかなイメージの発信を目指し, 制服のデザインを一部変更

3 財政状況（前年度予算からの増減）

（税込額）

区 分		28年度予算		27年度予算		差引増△減	
経 常 損 益	営 業 収 益	215	84	207	10	8	74
	うち 運 送 収 益	205	28	196	45	8	83
	営 業 外 収 益	1	91	2	74	△	83
	収 入 計	217	75	209	84	7	91
	営 業 費 用	205	35	197	74	7	61
	うち 経 常 人 件 費	71	97	69	09	2	88
	うち 退 職 給 付 引 当 金 繰 入 額	5	67	3	01	2	66
	うち 経 費	111	16	108	62	2	54
	うち 減 価 償 却 費 等	16	55	17	02	△	47
	営 業 外 費 用	6	09	5	97		12
	支 出 計	211	44	203	71	7	73
	差 引	6	31	6	13		18
	純 損 益	6	31	6	13		18
	利 益 剰 余 金 （うち 処 分 予 定 額 ※）	33 (10)	72 (58)	9	03	24	69
資 本 的 収 支	収 入	10	01	15	41	△5	40
	うち 企 業 債	7	75	12	48	△4	73
	うち 補 助 金	1	96	2	93	△	97
	支 出	42	88	34	21	8	67
	うち 建 設 改 良 費	29	89	22	20	7	69
	うち 企 業 債 償 還 金	12	49	11	51		98
	差 引	△32	87	△18	80	△14	07
資 金 剰 余 額		12	91	8	73	4	18

※ 利益剰余金の処分予定額は、26年度決算で確定した金額である。

高速鉄道事業

1 予算概要

○ 経営健全化計画を着実に推進

平成28年度予算は、安全対策、お客様サービスの向上、増収増客の取組を確実に実行するとともに、計画の進捗状況を踏まえた一般会計からの必要な支援を確保し、経営健全化計画を着実に推進する予算として編成

○ 1日当たり旅客数見込は、37万3千人

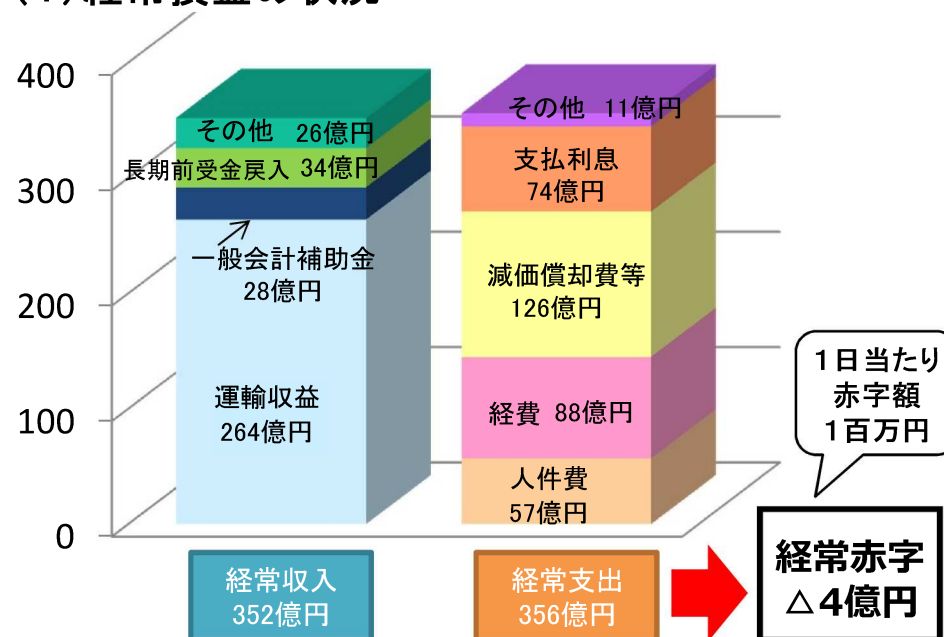
- ・ 前年度予算に比べ、1万5千人の増を見込み、運輸収益は前年度比10億円の増収
- ・ 経営健全化計画の目標である375千人の達成に向けて着実に前進

○ 経常損益の赤字が、4億円まで縮小

- ・ 旅客数の大幅増や、駅ナカビジネスの積極的展開等により、前年度予算に比べ10億円の収支改善
- ・ 現金収支の黒字は85億円となり、前年度予算に比べ12億円黒字が拡大

○ 企業債等残高見込は、3,700億円を上回り、依然厳しい経営状況

(1) 経常損益の状況



(2) 予算の主要数値

	28年度予算	27年度予算	差引増△減
在籍車両数	222両 [37編成]	222両 [37編成]	—
走行キロ数 [1日平均]	57.0千km	56.9千km	0.1千km
旅客数 [1日平均]	373千人	358千人	15千人
経常損益	△4億円	△14億円	10億円
現金収支 (償却前損益)	85億円	73億円	12億円
資金不足比率	※ 7.2%	23.1%	△15.9ポイント
年度末企業債等残高	3,792億円	3,942億円	△150億円

※ 経営健全化出資金の繰入れなしで、平成29年度以降も、安定的に20%を下回る見通しが立たないため、引き続き経営健全化団体として経営健全化計画を推進。

2 予算の重点

(1) 増収増客策

- ア 「地下鉄5万人増客推進本部」の体制の下、沿線施設や区役所・支所と連携したイベントの開催など、全庁を挙げた取組の推進
- イ 駅ナカビジネスの積極的展開や、大学・企業と連携した駅ナカアートプロジェクトの充実など、駅の魅力向上
- ウ 駅周辺の地域や事業者の協力をいただき、駅への案内表示や誘導を充実する取組の推進
- エ 地下鉄開業35周年・国際会館50周年記念合同イベントの実施、夏休み親子施設見学会の充実や、地下鉄・市バス応援キャラクターを活用したPR活動の更なる展開

(2) 駅ナカビジネスの積極的展開

- ア 「コトチカ京都」の拡充工事の実施(28年度開業)
- イ 「コトチカ北大路」の設置に向けた実施設計(29年度開業)

(3) 安全対策等

- ア 駅出入口への止水板の設置による浸水対策の強化
- イ 烏丸線駅ホーム端への注意喚起ラインの設置(可動柵未設置の12駅)
- ウ 地下鉄車両車内灯及び駅照明のLED化の推進

(4) お客様サービスの向上

- ア IC定期券及びICカードによる乗継割引の導入(29年4月運用開始予定)
- イ ICカードチャージ及び4箇国語表示機能付き券売機、精算機の導入(28年度全駅設置完了)
- ウ 改集札機のICカード対応の推進(28年度全改集札機の対応完了)
- エ 無人改札口へのIC対応型多機能インターホンの設置(京都駅、四条駅)
- オ 車内案内表示装置の4箇国語対応の推進(整備着手)
- カ 利用者に分かりやすい駅構内案内サインの整備推進
- キ 京都駅、五条駅トイレのリニューアル(京都駅28年度、五条駅28～29年度)
- ク 京都駅のエレベーター(ホーム・コンコース間)の増設
- ケ 更なる接遇向上と爽やかなイメージの発信を目指し、制服のデザインを一部変更

(5) 一般会計からの支援

- ア 国制度に基づく経営健全化対策出資金の確保
- イ 高資本費対策補助金(任意補助)の計上見送り

3 財政状況（前年度予算からの増減）

（税込額）

区 分		28年度予算		27年度予算		差引増△減	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
経 常 損 益	営 業 収 益	289	73	277	82	11	91
	う ち 運 輸 収 益	263	76	253	39	10	37
	営 業 外 収 益	61	94	62	78	△	84
	う ち 一 般 会 計 補 助 金	28	17	29	40	△1	23
	う ち 長 期 前 受 金 戻 入	33	37	32	97		40
	収 入 計	351	67	340	60	11	07
	営 業 費 用	269	96	263	15	6	81
	う ち 経 常 人 件 費	53	15	51	74	1	41
	う ち 退 職 給 付 引 当 金 繰 入 額	3	47	1	39	2	08
	う ち 経 費	87	69	85	04	2	65
	う ち 減 価 償 却 費 等	125	65	124	98		67
	営 業 外 費 用	86	02	91	43	△5	41
	支 出 計	355	98	354	58	1	40
	差 引	△4	31	△13	98	9	67
純 損 益		△4	31	△13	98	9	67
△ 累 積 欠 損 金		△3,112	74	△3,133	70	20	96
資 本 的 収 支	収 入	283	91	316	20	△32	29
	う ち 企 業 債 金	179	54	195	15	△15	61
	う ち 補 助 金	8	07	13	93	△5	86
	う ち 出 資 金	96	26	107	11	△10	85
	支 出	380	71	407	91	△27	20
	う ち 建 設 改 良 費	103	48	118	10	△14	62
	う ち 企 業 債 等 償 還 金	277	23	289	81	△12	58
差 引		△96	80	△91	71	△5	09
△ 累 積 資 金 不 足		△309	18	△309	17	△	1
資 金 不 足 比 率		7.2%		23.1%		△15.9ポイント	